保育の場における音楽活動に関する研究(1)

—幼稚園での音楽の必要性についての考察—

A Study of Musical Activity in Pre-School Education (1)
On the Necessity of Music in Kindergarten

足　立　広　美
Hiromi ADACHI

Ⅰ　はじめに

幼稚園の活動の場では，毎日の生活の中で幼児は様々な環境に触れ，体験をし，日々成長をし続けている。そして幼児一人一人が自分らしく，輝かしい活動が展開できるよう，幼稚園で行われる表現活動は重要であると考えており，平成12年４月１日から施行された幼稚園教育要領で示される5つの領域（健康，人間関係，環境，言葉，表現）の中から「表現」の３つのねらい，及び内容，解説（下記資料１）をもとに音楽活動の視点から幼児の表現を通しての体験の幅を広げていきたい。また，幼稚園では「朝のうた」「帰りの歌」「季節の歌」など日々の活動の中で常に音楽が流れているが，音楽的活動の仕方によっては，さまざまな効果を上げることが出来ると考えている。そしてすべての幼児が生活での経験の中で自分の感じたことや考えたことを表現できるようになるためには，幼児の表現を受け止める側の姿勢も大事であり，音楽活動が何のために行われるのか，またどのような効果が考えられるのかを常に吟味しながら音楽活動を行っていくことが大事であると考える。

今回の研究は第１弾としてまず，私立幼稚園児を持つ保護者56人に対して幼稚園における音楽活動に関するアンケートを実施し，「幼稚園教育要領」領域［表現］のねらいと内容とを比較していきたい。そして，保護者が求める音楽活動の相違点と共通点を把握し，この決意をふまえて，実際に子供を育てている保護者が，幼稚園で行われている音楽活動についてどれだけの認識があるのか，またどのような要望があるのかを考察することとする。

Ⅱ　目的

幼稚園教育要領領域「表現」のねらい及び内容，解説に沿って，幼児の感動する心や自分の感心の持っていることなどを自分なりに表現できるようになるためには，それに関わるすべての人たちの幼稚園の音楽活動に対して求める意見が重要であると考えており，実際に幼稚園に通わせている保護者は音楽活動に対してどのように考えているのかを把握することを目的として調査を行う。

資料１　「幼稚園教育要領」領域「表現」のに関するねらい及び解説（文献から資料を添付する）

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする。

１．ねらい

(1)　いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。

(2)　感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

(3)　生活の中でイメージを豊かにし，様々な表現を楽しむ。

これは，幼稚園においては，日常の生活の中で出会う美しいもの，すばらしいと感じる出来事など，そこから得られる体験の中で，そのときの自分の気持ちを友達や教師と共有し，表現し合うことを通して，豊かな感性を育てるようにすることが大切であるとし，その幼児期の経験から豊かな感性や自己を表現する力が生まれるという「ねらい」がまとめられている。

〈「幼稚園教育要領」領域［表現］の内容及び解説〉

１．生活の中でさまざまな音，色，形，手触り，動きなどに気付いたり，楽しんだりする。

〈１の解説〉幼児は，生活の中で，例えば身近な人の声や語りかけるような短い歌，面白い形の遊具，あるいは心地よい手触りのものなど，様々なものに心を留め，それに触ることの喜びや快感を全身で表す。さらに，このような経験を積み重ねながら，幼児は生活の中で出会う様々な音，色，形，手触り，動きなどの面白さ，不思議さや美しさなどに気付き，それらを素朴に受け止め，諸感覚を働かせながら，耳を傾けたり，組み合わせたり，感触を楽しんだりするようになる。幼児は生活の中で様々なものから刺激を受け，敏感に反応し，あるいは感覚を働かせ，その中にある面白さや不思議さなどに気付いていく。感性は，このようにあるものに敏感に反応したり，その中にある面白さや不思議さなどに気付いたりする感覚ととらえている。このような感性を育てていくためには，何よりも幼児を取り巻く環境を重視し，様々な刺激を与えながら，幼児の興味や関心を引き出すような魅力ある豊かな環境をつくっていくことが大切である。このように，周囲のもの対して幼児なりに何かを感じ，その気持ちを表現しようとする姿を温かく見守り，それらとのかかわりを十分に楽しませていくことが，豊かな感性を育てる上で重要である。幼児の感性を豊かにすることは，どのような環境の下で生活しているのか，すなわち周囲の人物・物的環境とのかかわりの積み重ねと密接に関係している。

２．生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ，イメージを豊かにする。

〈２の解説〉幼児にとって美しいものや心を動かす出来事とは，単に完成された特別なものや出来事だけではなく，例えば，園庭の草花や動いている虫を見る。飼っていた動物の誕生や死に遭

遇するなどの生活の中で起こることであり，それらの出会いから，喜び，驚き，悲しみ，怒り，恐れなどといった情動が働き，心が揺さぶられ，何かを感じさせられるものや出来事のことである。幼児は，日常の生活の中でこのような自然や社会の様々な事象や出来事と出会い，それらのもつ美しさや優しさ，また，悲しさや恐ろしさなどの体験を幼児のもっている様々な表現方法で表そうとする。幼児はこのようなことを通して具体的なイメージを広げたり，深めたりして，心の中に着実に蓄積していくためには，教師が幼児の感じている心の動きを受け止め，理解することが大切である。教師が固定観念に縛られない柔軟な姿勢で一人一人の幼児と接し，教師自身も豊かな発想をもって応じることが重要なのである。その際，教師の持つイメージを一方的に押し付けたり，幼児のイメージの豊かさに無関心であったりしないようにすることが大切である。これは，具体的なイメージが幼児一人一人の心の中に豊かに蓄積され，それらが組み合わされて，いろいろなものを思い浮かべる想像力となり，新しいものをつくりだす力へとつながっていくからである。

3．様々な出来事の中で，感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

〈3の解説〉様々な出来事と出会い，心を動かす体験をすると，幼児はその感動を教師や友達に伝えようとする。その感動が相手に伝わったことが分かることで，更に感動が深まる。しかし，その感動を教師や友達などから受け止められないままであると，次第に薄れてしまうことが多い。感動体験が幼児の中にイメージとして蓄えられ，表現されるためには，日常生活の中で教師や友達と感動を共有し，伝え合うことを十分に行われるようにすることが大切である。幼児が感動体験を表したり，伝えようとしたりするためには，何よりも安定した温かい人間関係の中で，表現への意欲が受け止められることが必要である。特に，3歳児では，じっと見る，歓声を上げる，身振りで伝えようとするなど言葉以外の様々な方法で感動したことを表現しているので，教師はそれを受容し，共感をもって受け止めることが大切である。さらに，そのことを教師が仲立ちとなって周りの幼児に伝えながら，その幼児の感動を皆で共有することや伝え合うことの喜びを十分に味わえるようにしていくことが必要である。このような経験を積み重ねることを通して幼児同士が伝え合う姿が見られるようになる。また，教師自身にも，幼稚園生活の様々な場面で幼児が心を動かしている出来事を共に感動できる感性が求められる。例えば，にじんだ絵の具の色に驚いたり，悲しい手紙に心を動かしたりするなど，幼児と感動を共有することが大切である。

4．感じたこと，考えたことなどを音や動きなどで表現したり，自由にかいたり，つくったりする。

〈4の解説〉幼児は，感じたり，考えたりしたことをそのまま率直に表現することが多い。また，幼児は，感じたり，考えたりしたことを身振りや動作，顔の表情や声など自分の身体そのものの動きに託したり，音や色，形などに仲立ちにしたりするなどして，自分なりの方法で表現し

ている。その表現は，言葉，身体による演技，造形などに分化した単独の方法でなされるというより，例えば，絵を描きながらその内容を言葉や動作で説明するなど，それらを取り混ぜた未分化な方法でなされることが多い。特に，3歳児は，手近にある物を仲立にしたり，声や動作など様々な手段で補ったりしながら自分の気持ちを表したり，伝えたりしようとする。教師は，表現の手段が分化した専門的な分野の枠にこだわらず，このような幼児の素朴な表現を大切にして，幼児が何に心を動かし，何を表そうとしているのかを受けとめながら，表現する喜びを十分に味わわせるようにすることが大切である。幼児は，自分なりの表現が他から受け止められる体験を繰り返す中で，安心感や表現の喜びを感じる。これらを基盤として，幼児の思いを音や声，身体の動き，色や形などに託して日常的な行為として自由に表現できるようにすることが大切である。幼児は，様々な場面でこのような表現する楽しみを十分に味わうことにより，やがて，より分化した表現活動に取り組むようになる。

5．いろいろな素材に親しみ，工夫して遊ぶ。

〈5の解説〉幼児は，思わぬものを遊びの中に取り込み，表現の素材とすることがある。また，例えば，木の枝や木の実をいろいろに見立てたり，組み合わせを楽しんだりして，自分なりの表現の素材とすることもある。このような自分なりの素材の使い方を見付ける体験が創造的な活動の源泉である。このため，音を出したり，形を作ったり，身振りを考えたりして表現を楽しむ上で，利用できる素材が豊かにある環境を準備することが大切である。幼児は，遊びの中で，例えば，紙の空き箱をたたいて音を出したり，高く積み上げたり，それを倒したり，並べたり，付け合せたり，押しつぶして形を変えたりして様々に手を加えて楽しむ。ときには，それを頭にかぶり，何かの振りをして面白がることもある。また，箱の中に細工をして，ままごとで使う器にしたり，周囲にきれいな包装紙を貼って，大切なものをしまっておく容器に利用したりする。このようにして一つの素材についていろいろな使い方をしたり，あるいは，一つの表現にこだわりながらいろいろな物を工夫して作ったりする中で，その特性を知り，やがては，それを生かした使い方に気付いていく。

このような素材にかかわる多様な体験は，表現の幅を広げ，表現する意欲や創造力を育てる上で重要である。

6．音楽に親しみ，歌を歌ったり，簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。

〈6の解説〉幼児は，一般に音楽にかかわる活動が好きで，友達と遊びながら，即興的な唱え歌や替え歌を歌ったり，音楽に合わせて身体を動かしたり，ときには，友達と一緒に踊ったりする。また，心地よい音の出る物，いわゆる音具や楽器に出会うといろいろな音を出してその音色を味わったり，リズムをつくったりしている。このように，幼児が思いのままに歌ったり，簡単なリ

ズムを楽器を使って遊んだりしてその心地よさを十分に味わうことが，歌ったり，楽器を使ったりして自分の気持ちを込めて表現する楽しさとなり，生活の中で音楽に親しむ態度を育てる。その際，正しい音程で歌うことや一つの楽器を上手に演奏することなどを性急に求めず，幼児自らが音や，音楽で十分遊び，表現する楽しさを味わう活動を展開させることが重要である。そのために，教師がこのような幼児の音楽にかかわる活動を受け止め，認めることが大切である。また，必要に応じて様々な歌や曲が聴ける場，簡単な楽器が自由に使える場などを設けて，幼児が音楽に親しみ，音楽を楽しめるような環境を工夫することが大切である。一方，教師と一緒に美しい音楽を聴いたり，友達とともに歌ったり，簡単な楽器を演奏したりすることも，幼児の様々な音楽にかかわる活動を豊かにしていくものである。このような活動を通して，幼児は想像を巡らし，感じたことを互いに表現し合い，表現を工夫してつくり上げる楽しさを味わうことができるようになる。幼児期において，このような音楽にかかわる活動を十分に経験することが将来の音楽を楽しむ生活につながっていくのである。

7．かいたり，つくったりすることを楽しみ，遊びに使ったり，飾ったりする。

〈7の解説〉幼児は，生活の中で体験したことや思ったことをかいたり，様々なものをつくったり，それを遊びに使ったり，飾ったりして楽しんでいる。幼児の場合，必ずしも，初めにはっきりとした必要性があって，かいたり，つくったりしているのでない。あるものを何かに見立てることから，遊びのイメージをもち，それに沿ってかき加えたり，つくり直したりする場合もあれば，また，自分でかいたり，つくったりすることそのことを楽しみながら，次第に遊びのイメージをもったりする場合もある。いずれの場合においても，その幼児なりの楽しみや願い，遊びのイメージを大切にして，幼児の表現意欲を満足させていくことが重要である。また，幼児が遊びの中で，かいたり，つくったりするものは，色や形にこだわらない素朴なものもあるが，その幼児なりの思いや願いが込められている。特に，3歳児では，例えば，単に広告氏を巻いて棒をつくり，それを手にして遊ぶなど，その幼児なりの見立てやイメージの世界を楽しんでいる姿も見られる。教師が，幼児の視点に立ち，その幼児がそれらに託しているイメージを受け止めることが大切である。さらに，友達との共通の目的をもって遊びを楽しむようになってくると，遊びの中の必要性から，幼児自らが色や形にこだわり，工夫して，かいたり，つくったりする姿も見られるようになる。例えば，お店やさんごっこでは，いろいろな品物を工夫して作る姿が見られる。それは，遊びの中での必要性から生まれてきたものであり，幼児の思いや願いを実現する行為であるが，同時に，色や形の変化を楽しむ行為でもある。幼児はかいたり，つくったりすることを楽しみながら，同時に，自分の思いを表したり，伝えたりして遊んでいる。それぞれの遊びの中で，幼児が自己表現をしようとする気持ちをとらえ，必要な素材や用具を用意したり，援助したりしながら，幼児の表現意欲を満足させ，表現する喜びを十分に味わわせることが重要である。

8．自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりする楽しさを味わう。

〈8の解説〉幼児は，家庭や幼稚園の生活の中で様々な体験を通して，心の中にその幼児が思い描くような像としてイメージを蓄積していく。そして，イメージは，様々な刺激によって呼び起こされ，表現されていく。例えば，ままごとの道具を見ることから家庭生活を思い起こし，そのイメージに沿って母親や父親の役になってままごとを楽しんだり，あるいは物語の主人公に対する憧れの気持ちからごっこ遊びを楽しんだり，自分たちの物語をつくって演じたりする。入園当初は，一人一人がそれぞれの見立てを楽しんだり，自分が物語の主人公になって振舞うことによって一人で満足したりする姿が多く見られる。同じ場にいながらも，あるいは同じものに触れながらも，そこからイメージすることは一人一人異なっているので，教師は，幼児一人一人の発想や素朴な表現を大切に受け止め，幼児が開放的な気分を味わいながら自分なりの表現が楽しめるようにすることが大切である。また，3歳児は一人一人の世界を楽しんでいることが多く，何かのつもりになってごっこ遊びをするというよりは，1本の棒を持っただけで何かになりきっている姿さえも見られる。幼稚園の中で一緒に生活を重ね，共通の経験や感動を伝え合う中で，互いのイメージが重なり合い，次第に相手と一緒になって見立てをし，役割を相互に決めて，それらしく動くことを楽しむようになる。ときにはそれが断片的な遊びから，目的やストーリーをもった遊び方へと変化することがある。さらに，それぞれのイメージを相手に分かるように表現し，共有して，共通のストーリーやルールをつくり出し，「○○ごっこしよう」などと遊ぶことができるようになってくる。幼児のもっているイメージがどのように遊びの中に表現されていくのかを理解しながら，そのイメージの世界を十分に楽しめるように，多様な道具や用具，素材を用意し，場を整えることが大切である。なお，どのようなものを幼児の周りに配置するかは，多様な見立てや豊かなイメージを引き出すことと密接なかかわりをもつ。それは必ずしも本物らしくなりきることができるものが必要ということではない。むしろ，幼児は，一枚の布を身にまといながらいろいろなものになりきって遊ぶ。さらに，幼児は，ものに触れてイメージを浮かべ，そのものをいろいろに使うことから更にイメージの世界を広げるといったように，ものと対話しながら遊んでいる。この意味で，多様なイメージを引き出す道具や用具，素材を工夫し，それらに幼児が日常的に触れていく環境を工夫することが，表現する楽しさを味わわせることにつながるのである。

以上が文部科学省でまとめられている「幼稚園教育要領」領域「表現」の内容及び解説である。

この8つの内容の中で，音楽或いは「音」という言葉が，3つの内容で示されている。そしてこれらを具体的な音楽活動として捉えていくと，幼児と音・音楽(2)では「歌を歌う」「楽器を奏でる」「身体を表現する」「音楽を鑑賞する」「創造的な表現をする」という5つの分類として形成されているとある。また表現の領域では制作作業と音楽活動が一緒になることで「表現」という内容が作られている。しかしながら，幼稚園教育要領領域「表現」では，幼児の技術や目に見える

発達について述べられているのではなく，幼児の感性，イメージ，楽しむ，親しむ，味わう，など幼児の成長の中で一番大事な心の発達の目的のためにこの主旨があると考えられる。そして，この自己表現を助ける作用がひとつの幼稚園で行われる音楽活動であると思うと同時に，本当によいものを見抜く力，また，感性は一流と接してこそ養われるものである。したがって，幼児に対してただ音楽活動をやればいいという安易な考えは幼児の表現の可能性をつぶしてしまう恐れが出てきてしまうのである。そして，一番怖いのは音楽活動をする側が理論だけに頼って心を使う活動が行われないことである。幼児の伝えたいという気持ち，または感動する気持ちを育てるためには，その気持ちを最大限に表現し受けとめてもらえる大人がいなければならない。そして，美しいものを美しいと感じ，またすばらしい体験を音楽によって感じることのできる素直な心を持つ幼児になるよう，音楽活動で表現していかれる筆者に成長するための研究にしていきたい。

Ⅲ　調査の方法，時期，対象

まず現在私立幼稚園に通っている子供を持つ保護者に次のような幼稚園の音楽活動に関するアンケートを実施し，幼稚園で行われる音楽活動の認識などについて答えてもらった。

実施期間　　平成14年10月から12月にかけての約３ヶ月間である。

対 象 者　　私立幼稚園に通っている３歳～６歳の幼児の保護者80人

回 収 率　　70%（80人中56人）

資料2　アンケート調査用紙

1．幼稚園で行われている音楽活動を知っていますか？

　a）知っている　　b）知らない

2．1でa)と答えた方にお聞きします。あなたのお子さんの幼稚園ではどのような音楽活動が行われていますか？具体的にお答えください。

（　　）

1でb）と答えた方にお聞きします。なぜ知らないのですか？

（　　）

3．幼稚園で行われている音楽活動に対して満足していますか？

　a）満足である　　b）満足していない　　c）わからない

4．3でa）と答えた方にお聞きします。どのような理由でそのように思いますか？

（　　）

5．3でb）と答えた方にお聞きします。どのような理由でそのように思いますか？

（　　）

6．幼稚園での音楽活動は何のために行われていると思いますか？

　a）（　　）

　b）わからない

7．あなたのお子さんは音楽が好きですか？

　a）好き　　b）嫌い　　c）わからない

8．あなたのお子さんは何歳ですか？また年少，年中，年長のどれですか？〈例3歳年少〉

（　　）歳　（　　）

9．あなたのお子さんにはどのように育ってもらいたいですか？（例，素直な子など）

（　　）

10．幼稚園での音楽活動は必要だと思いますか？それはどうしてですか？

　a）必要である。　b）必要ない　c）わからない

それはどうしてですか？

（　　）

Ⅳ　調査の結果

問１ー幼稚園で行われている音楽活動を知っているかについて。

a）知っている　39人　約69.6%

b）知らない　　17人　約30.4%

問２ー幼稚園ではどのような音楽活動が行われているかについて［１でａの回答者39人］

朝のうた，帰りのうた	31人
年に数回の音楽，お遊戯発表会	5人
週１回の音楽指導	2人
運動会のときの鼓笛の披露	1人

ーなぜ音楽活動を知らないのかについて「１でbの回答者17人」

子供の音楽活動に興味がない	4人
妻が知っている	2人
幼稚園でのアピールがない	2人
父兄参観に出席したことがない	1人
音楽活動がどのようなものをさすのかがわからない	1人
幼稚園全体の活動を知らない	1人

問３ー幼稚園での音楽活動は満足しているかについて［回答者全員］

a）満足である　　25人　約44.6%

b）満足していない　10人　約17.9%

c）わからない　　21人　約37.5%

問４ー３でa)の回答者満足である人の理由［回答者25人］

子供が楽しそうだから	19人
子供が伸び伸びとしている	2人
音楽の先生が本格的である	1人
子供の発達に役に立つ	1人
言葉を自然に覚える	1人
活動をしているときの子供の目が輝いている	1人

問５ー３でb)の回答者満足していない人の理由［回答者10人］

音楽活動の現場を見ていない	5人
先生の音楽の技術がない	2人
強制的にやらされている	1人
曲が古い	1人
音楽よりも遊ぶ時間を多くしてもらいたい	1人

問6－幼稚園での音楽活動はなんのために行われているかについて［回答者全員］

子供が楽しむため	16人
子供の発達，成長(言葉，生活習慣)のため	6人
思いやりの心が持てるようになるため	5人
心が大きくなるため	1人
感情表現が豊かになるため	1人
前向きに生きていくことを教えるため	1人
友達を作るため	1人
身体を動かすため	1人
幼稚園でいいと決められて行われているため	1人
わからない	23人

問7－音楽が好きであるかについて［回答者全員］

a) 好き	55人	約98.2%
b) 嫌い	0人	0%
c) わからない	1人	約0.18%

問8－保護者の子供の所属する組について［回答者全員］

年少組	19人
年中組	21人
年長組	16人

問9－どのように育ってもらいたいかについて［回答者全員］

明るく健康な子	18人
やさしい子	11人
個性のある子	4人
思いやりのある子	3人
自己主張ができる子	2人
何事も最後までやり遂げる子	1人
前向きな子	1人
勉強ができる子	1人
自分の意見をしっかり持っている子	1人
人の話しが聞ける子	1人
喜怒哀楽がある子	1人
戦争を起こさない子	1人
いじめをしない子	1人

自他共の幸福が考えられる子	1人
エネルギッシュな子	1人
スポーツのできる子	1人
ピアノが上手に弾ける子	1人
表情豊かな子	1人
お友達が沢山できる子	1人
感動ができる子	1人
我慢ができる子	1人
子供には期待しない	1人
親が決めることではない	1人

問10―幼稚園での音楽活動は必要であるかについて［回答者56人］

a）必要である	55人	約98.2%
b）必要ない	0人	0%
c）わからない	1人	約0.17%

問10の幼稚園において音楽活動が必要である理由について［回答者55人］

～ a）の回答者の理由 ～

子供にとって楽しそう	19人
子供の成長のため	14人
前向きに生きるため	7人
生活の中に音楽が満ち溢れているから	6人
音楽は人の心を穏やかにする	2人
音楽は人の心を変えることができる	1人
コミュニケーションがとれるようになる	1人
人との付き合いができるようになる	1人
心を豊かにする	1人
わからない	4人

V　調査結果からの考察

今回の調査結果から，幼稚園の音楽活動は必要であるとする保護者の意見が98%を占めた。この結果は，問7の子供自身が音楽が好きであるとの回答と比例しているものと考えられ，やはり，親としてはいいものはどんどん取り入れて幼稚園での活動を行ってもらいたいという要望の表れなのではないかと考えられる。一方，問3の幼稚園での音楽活動に対して満足であるか，との質問には，満足であると答えた保護者が全体の50%にも満たなかった。幼稚園での音楽活動は必要

であるという調査結果が示されているのに，幼稚園での音楽活動に満足できない，わからないという意見が出されているのはどうしてなのであろうか。これに対しての筆者は，まず，幼稚園で行われる音楽活動がどのように展開され，何のために行われているのかがあまり理解されていないためではないだろうかと考える。もしそうであるならば，保護者が保育の中の幼稚園での音楽活動が必要であるとの意見が多く出されているので，幼稚園側は音楽活動を積極的に取り入れ，音楽活動の意義や目的を保護者に伝えていくことが必要ではないか。また，現在の保育は閉鎖的ではなく開かれた中で保育が成り立っている。その中にあって，満足できないという意見があるならば，幼稚園教育要領でも幼稚園と家庭との連携を大切にするように示されているので，保護者自身も積極的にどのような活動が行われているのかを参観し，意見を述べてもいいのではないだろうかと考えている。この質問が，音楽活動の枠の中での質問だったためにこのような回答が多く出されたことも考えられるが，幼稚園の教諭に子供を預けるということは，音楽だけではなく，どの活動においてもよく観察をし，保護者自身が納得をしてから初めて幼稚園または教諭に対する信頼関係が生まれていくものと考えられ，幼稚園での活動は，家庭や地域も含めて子供に関わるものすべての人たちで進めていきたいものである。また，問6の幼稚園での音楽活動は何のために行われているかについては，子供が楽しむためが一番多く，やはりどの保護者も子供が楽しそうにしている姿はうれしいものであり，楽しんでいる行動自体が発達，成長を促すことにつながるという保護者の見解ではないかと考えている。また，同じ問いのその他の意見では，人から言われたことをそのまま行動に移すのではなく，自ら望んで自ら動いて思いやりの行動やお友達を作ることをしていってほしいという保護者の子供に対する期待が込められているように思える。そして問9のどのように育ってもらいたいかについては問6の回答と似ている意見が多くあり，これについては，保護者は幼稚園での音楽活動での音楽の技術や質を求めているのではなく，子供の様々な感情面での成長をしてほしいという要望ではないかと受け止められた。また問10の幼稚園での音楽活動が必要とされる理由についての回答では子供の楽しそうという直接的な姿や，音楽に対するあらゆる可能性を考えて必要とする間接的な考えなど様々な回答があった。これらの意見は音楽活動を進める際にも大切にしていかなければならない意見であるとともに，この要望をたえず確認をしながら幼稚園での音楽活動を展開していかなければならないと考察する。

Ⅵ　おわりに

今回の調査では，幼稚園の活動において音楽活動が必要であるという要望が多くあるということが分かった。これは，幼稚園での音楽活動が子供にとって楽しそうだからという音楽活動自体を客観的に捉えている意見や，またそうではなく，音楽は感情表現が豊かになるためなどの音楽自体の何らかの可能性を感じているなどの様々な意見があり，それが相乗効果となって，幼稚園での音楽活動が必要であるという結果が出たのではないかと考えている。そして丸山忠璋(3)は，

音楽は容易に私たちの心の扉を開かせ，安心して自己を表明させてくれる力を持っている，と記しているが，保護者一人一人の潜在意識の中にも音楽が様々な幼児の心の発達を助ける作用があるとの考えがあるのではないかと感じている。また，キース・スワン・ウィック(4)は落ちつき，優しさ，協調性のような一定の資質や能力を発達させる。芸術は「規律正しさ，献身，細心の注意」を促す。芸術は対人関係や，ひいては国際理解の助力となる，と述べている。芸術という言葉を音楽に置き換えてみると，音楽には幼児の表現力を無限大に開かせる作用があり，従って幼稚園での音楽活動は幼児の心の育ちを良くし，かつ重要な幼稚園での活動のひとつといえるのではないだろうか。

幼稚園での音楽活動においては以上のことから必要であると考察するとともに，より幼児の表現力を育てるため，そして様々な保護者の意見，要望を我が事とし，幼稚園での音楽活動が必要であるとされたことに責任を持って筆者自身も実際の音楽活動についてより理解を深めていかなければならないと感じた次第である。

参考・引用文献

(1) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」
平成13年　フレーベル館（p 123～p 133）

(2) 納原善雄　三森桂子「幼児と音・音楽～幼児と音楽教育～」
1998年　有限会社ディスク・コンプ（p 40）

(3) 丸山忠璋「療育的音楽活動のすすめ～明日の教育と福祉のために～」
2002年　春秋社（p 122）

(4) キース・スワンウィック編　野波健彦　石井信生　吉富功修　竹井成美　長島真人訳「音楽と心と教育」
1999年　音楽之友社（p 56）